

台湾留学を終えて

建築学科 4年 佐藤 毅

①留学目的の達成度

私の留学の目的は大きく2つありました。

まず1つ目は、文化の違いによってどのような都市のあり方、人の生活のあり方があるのかを実際に感じることで今後建築を考えていく上での糧とすることです。

私は、卒業設計のテーマを台湾で決めました。それは台湾の建築とライフスタイルを体験して、改めて日本の都市の生活の問題点を感じたからです。今後発展するテクノロジーによってライフスタイルはどのように変化する可能性があり、それによって建築にどのような変化が起こるのか。それは果たして人の生活と建築を豊かにするのか。それを都市レベルで考えたいと考えました。

台湾での生活が私にこのテーマを与えてくれたので1つ目の目標は達成できたと言えます。

2つ目は、中原大学の学生と建築や設計を通して交流し、多くの議論をすることで語学力の向上や建築設計力の向上を図ることです。

これに関しては少し足りなかったように感じます。中原大学の学生に建築を案内してもらい機会があつて建築について話す機会にはありましたが、それ以外は週に1回のエスキスで一緒になるくらいであり議論する機会がありませんでした。

しかし、寮で建築学科以外の学生の友達がたくさんでき、英語でコミュニケーションをとる機会も多かったため少しではありますが留学前より英語の語学力は向上したように思います。留学を経験して英語、中国語を学びたいという意欲が湧いたことを含めると目的の半分は達成できたと言えるかもしれません。

②留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化

私は留学する前は自分の英語力に全く自信がなく、留学することに抵抗を感じていました。しかし、留学は日本の生活では経験できないことがたくさん経験できるだけでなく、様々なことを見つめ直すきっかけを与えてくれました。理由は異文化に触れることができるということもありますが、時間の流れが違うということが大きく影響しているように思います。台湾では卒業設計を考えることと、週に1回のエスキス以外は自由なので色々なことについて考える時間が充分にありました。

また、中原大学の学生は英語を話せる人が多く、日本語を話せる人もたまにいます。それに台湾の人は日本人に対してとても親切に接してくれるため、私のように英語力に自信がない人も台湾であれば留学しやすいように感じました。台湾では日本語を勉強したい学生も多いので、言語交換という方法でお互いに助け合うこともできると思います。

今では留学に対して積極的に考えるようになり、また機会があつたら挑戦したいですし、卒業設計が終わったらもう一度台湾に行こうと考えています。そのためにも英語、中国語をもっと勉

強したいという気持ちが強くなり、言語学習についても積極的に became.

英語や中国語などを勉強したいけれどなかなかきっかけをつかめない人がいたら、まず留学を試してみるのも良い方法だと思います。

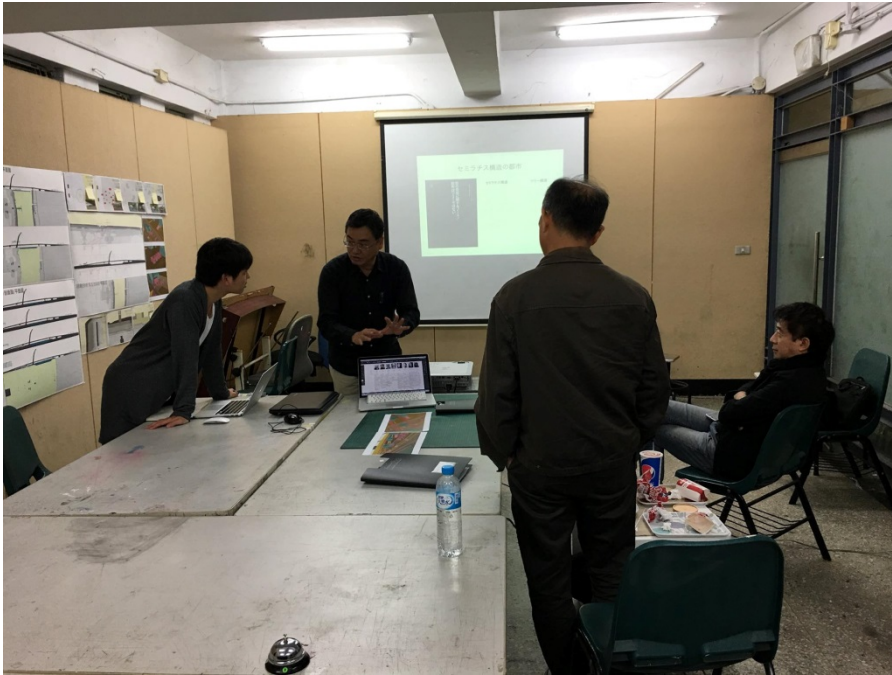
③今後の長期留学の意欲

今後の長期留学については機会があれば是非したいです。今回の2ヶ月の留学は長いようでとても短い一瞬の出来事のように感じました。留学期間で英語力、中国語力を向上させたいと考えていましたが、2ヶ月という短い期間ではとても難しいと覚えます。英語や中国語の生活に慣れ始めたら帰国時期になってしまったという感覚です。外国語は日本でも勉強はできますが、ネイティブの会話に常に触れることができる環境の方が吸収量が多いです。それにこちらが話す英語の発音が相手にいかに伝わらないかも体感することができます。会話する能力を身につけるためにはある程度の期間留学をすることが近道だと感じました。

建築では就職先によっては英語や中国語が必要になることもありますし、海外で就職を考えている人もいます。自分の将来の可能性を広げる一つのきっかけとして留学は大変良いと感じました。



中原大学の学生との台中旅行(巫州現代美術館にて)



卒業設計中間発表の様子



鼎泰豊での食事

多国籍化の現状を直に感じた2ヶ月

建築学科 4年 神山将哉

私の留学目的は語学力の向上と、台湾の建築に触れることの2つでした。

まずは語学について。今回の台湾留学は、私にとって初めての海外経験でした。今回の留学以前では、外国語の必要性は頭では理解しても、さほど勉強はしていなかったため英語も中国語も大して話せませんでした。

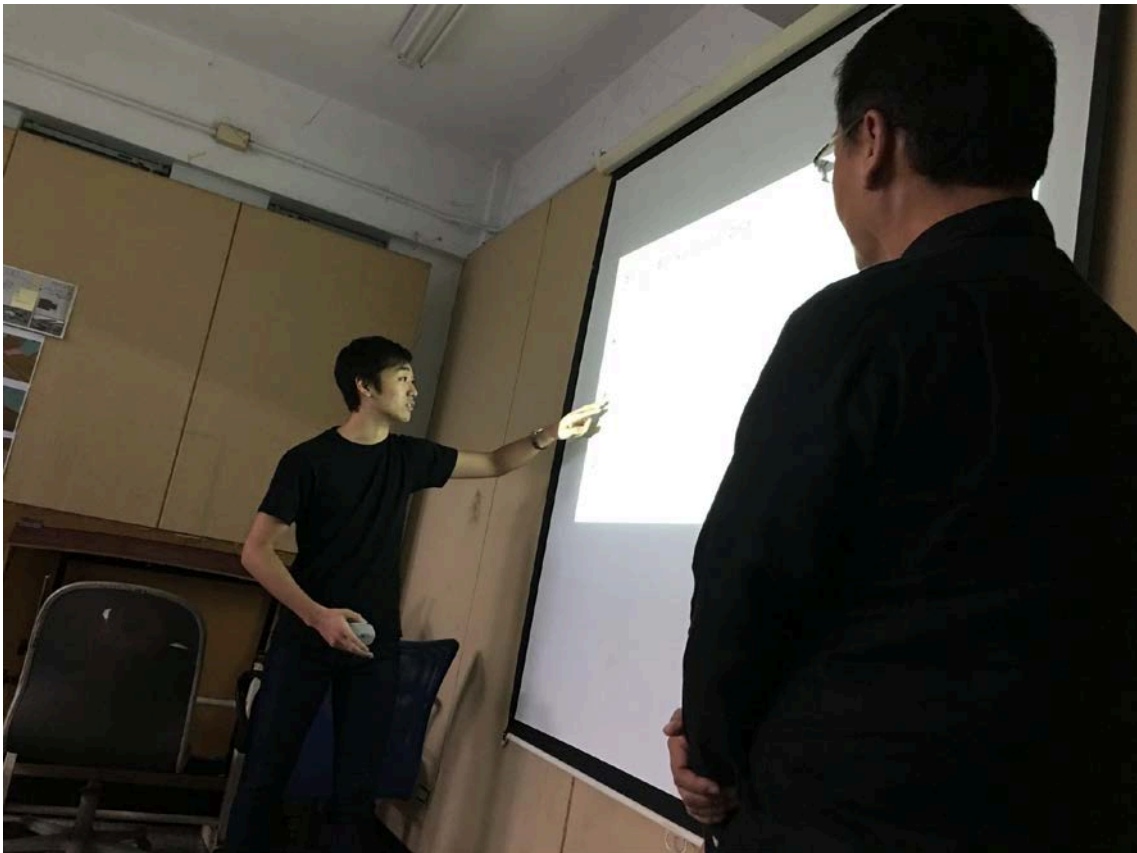
しかし、今回の留学では、ルームメイトは全員中原大学生で日本語が通じない環境に放り込まれました。ルームメイトは英語がとても達者だったので、ゆっくり話してもらったり、筆記してもらったりして、やっと理解できる程度でした。返事もうまく返せずに、最初はとても苦勞をしましたが、ルームメイトたちはみんなとても良い人だったので、たどたどしい言葉を聞いてくれて1ヶ月過ぎた時には慣れてきて、なんとか簡単なコミュニケーションが取れていた気がします。2ヶ月では英語も中国語も話せるようにはなりませんでしたが、語学学習をする習慣がつかしました。また、私たちが会った台湾人のほとんどが英語をスラスラ話していたことにも刺激を受け、自分の意識の低さを知ることができました。

次に、台湾の建築についてです。授業の一環として、卒業設計の中間発表を行いました。発表で感じたことは、1人にかかる時間がとても長いということ。1人につき40分～1時間くらいの時間(質疑応答も含めて)をかけていただきました。「たくさん調べたデータを短く簡潔にまとめる」のではなく、「より詳しく事細かく伝える」といった感じです。したがって卒業設計では、これでもかと言うほどのリサーチがなされ、それを事細かく発表しています。日本では長くて1人10分ほどなので、簡潔にまとめるが故に、ないがしろになってしまっていることもあるのかもしれませんが。日本と台湾の設計課題に取り組む姿勢の違いを、発表時間の長さから見てとることができました。

また、台湾の卒業設計では、ある社会問題を主題とし、それを解決するための解答としての建築の提案が多いです。例えば、外国人労働者問題や国際問題、公営住宅問題などの強烈な問題が主題に掲げられます。流れとしては、主題の社会問題を決めてから、敷地や社会背景などのリサーチを行い、それらをどう解決するのかをプランニングしていく感じです。主題である社会問題に対する解決策としての建築を提案していくということは、社会における建築のあり方を自分なりに整理していく作業だと思います。中原大学生は解決策としての建築と同時に、社会における建築のあり方も提案していました。社会問題を解決しつつ、建築のあり方も提案することはとても難しいですが、自分が将来どのように建築と関わりたいかを決意表明をするためには、社会問題はとても良い切り所だと感じました。

また台湾では問題の解決に多くの労力を使うため、建築の美しさについてはあまり踏み込みきれないケースもあるようです。反対に、日本は台湾に比べて社会問題が少ないためか、社会問題は踏まえない提案が多く、その代わりに建築の美しさについては、レベルが高いと個人的に感じました。台湾の良い点だけでなく、日本の長所にも気づくことができた良い機会でした。

最後に、今回の留学は語学力においては、自分のレベルの低さを思い知り今後自分が何をすべきかに気づけたことが大きな進歩でした。現地の友達もたくさんできたので、これからも続く彼らとの交流を語学学習の励みにします。建築においては、台湾の社会問題に直に触れ、社会問題に取り組む学生の姿を見たことで、社会における建築のあり方を考えることの大切さに更に気付きました。建築に対する考え方が大きく変わった良い機会となりました。今後はより一層努力して、語学ならびに建築を学び続けます。



中間講評の発表風景



中間講評の集合写真